

2023 年 地方政治 I 期末試験

担当講師 伊藤修一郎

新聞記事（朝日新聞 2023 年 4 月 30 日、同 6 月 1 日）を読んで各問いに答えなさい。

- \* 行の指定は目安なので超過しても減点しないが、多く書いても加点はない。
- \* 問いに対する解答以外の記述（特別な配慮を求めるなど）は 1 行につき 10 点減点する。
- \* 時間配分をよく考えて、空欄がないよう（何かしら答えるよう）にするとよい。

(1) 傍線部①（記事 1 リード文、記事 2 第 1 段）のように、杉並区の女性議員過半数という選挙結果が目立つのはなぜか。授業で学んだ全国的傾向と対比して説明しなさい。3 行以内で簡潔に記すこと。

(2) 傍線部②（記事 1 第 2 段）の支援枠組みを「相乗り」と呼んでよいか。授業で学んだ、この語の定義を述べて説明しなさい。3 行以内で簡潔に記すこと。

(3) 傍線部③（記事 1 第 4 段）の二元代表制とは何かを説明し、それがなぜ「区長が特定の候補を応援するのはどうなのか」という批判の根拠となるのか、質問者の立場にたって説明しなさい。

(4) 傍線部④-1（記事 1 第 3 段）で示される選挙前には区長と議会の関係（例えば予算審議）はどうだったと推測されるか、そして傍線部④-2（記事 2 第 3 段後半）の選挙後はどのようなになると予想されるか、簡潔に述べなさい。これらを踏まえ、かつ授業で学んだ内容も加えて、首長・議会関係について論じなさい。

(5) 傍線部⑤（記事 1 第 2 段、第 4 段（2 カ所）、記事 2 第 1 段、第 3 段）にあるように、自民党現職が落選して新人が多く当選し、議会構成が変化したことが歓迎され、議論の活性化が期待されるのはなぜか。授業で学んだ理論や DVD の内容などを踏まえて論じなさい。

(6) 傍線部⑥（記事 1 第 2 段、記事 2 第 2 段、第 3 段）には、費用が多くかかりそうな事業の要求や案が挙がっているが、区の一般財源で実施することは可能か。2021 年度決算で経常収支比率＝82.8%、公債費負担比率＝1.9%というデータを踏まえて検討しなさい。

解説・講評

例年どおり、新聞記事を読んで、授業で学んだ内容を理解していることをアピールし、記事に書かれた出来事を論評・解釈するよう求める問題とした。授業が現実理解に役立つことを感じてもらう意図でずっと続けている出題法である。

今回の試験は依然としてコロナの影響下にあったため、持込可で実施した。予想どおり、逆説的だが、出来が良くなかった。持込可とすると、試験中に資料をみることを予定して、試験前の復習をしてこない学生が一定数いるためと推測される。

冒頭で述べた趣旨からすれば、「授業で学んだ知識を用いて記事を論評・解説せよ」という出題にして、論点の発見からやってほしいところだが、そうすると論述できない答案が続出するので、ヒントのつもりで小問を出している。その結果か、落第点は少なかった。

#### 解答のポイント

問（１） 授業で紹介した女性議員の割合（2023 年で 22%）に触れ、多様性や有権者の人口構成の代表の観点から女性議員の増加が求められていることを書くことを期待した。

問（２） 授業で紹介した「相乗り」は、保守と革新の両方の政党から支援を受ける首長選挙の枠組みのことである（この定義を書けていない答案が散見された）。これに照らして判断することを期待した。ただし、1990 年代の政治改革以降、保革の区別が不明瞭になったので、採点では理屈が通っていれば正解にするか部分点をつけた。

問（３） 授業で学んだ二元代表制の定義を明記すること、中でもチェック・アンド・バランスに触れることがポイント。それで自ずと記事の論評ができる。

問（４） 授業で学んだ首長議会関係の知識を用いて、議会選挙の前後の勢力比の変化の影響を論ずることを期待した。ただし、選挙後に首長派がどの程度になったか記事では明確にされていないので、自分なりの理屈をたてて説明してあればよいこととした。

問（５） 議員の年齢、経歴、性別等に偏りがあること、多選や選挙制度に起因する既得権益との結びつきがあることなど、授業で学んだ議会の現状を記述し、選挙後の変化がどう影響するかを論ずることを期待した。

問（６） 指標の定義や意味を正しく説明したうえで、記事にある授業が実施可能か論じることを期待した。

以上はあくまで解答例のポイントを例示したもので、なるほどと思わせる理屈で論じてあれば、授業で扱った範囲を超えた知識を援用していても正解とした。